

起業

第7部 実験場からの出発

福岡市の商店街を深を歩けないからだ。

夜、見慣れぬ「人影」が 商店街でアイススクリー
すり抜ける。身長一五七
センチの体が歩道の段差を越
え道路を渡り、自転車
をよける。酔客が振り向い
て驚く。「ロボットじゃ
ないか」。

二十七日に日本で初め
て実施するロボットによ
る「夜回り」は福岡県内
でしか見られない。法律
ではロボットが道路に出
ることを想定しておら
ず、特区の認定を受けた
福岡市などを除けば街路

トなら、普通に道路を歩
ける。酔客が振り向い
て驚く。「ロボットじゃ
ないか」。

くことで機能の確認はも
ちろん、「予想外の事態
に遭遇させて改良点を見
つける」。改善を積み重
ねる一方で、市街地でロ
ボットを動かすためのル
ール作りにも役立っている。

特区で挑戦、全国標準狙う



福岡県の特認認定地域を歩
くテムザックのロボット

内なら個 横浜以外でも展開した
人、法人に

よる市民農 魔薬物が良質のバルブ
園の開設が に早変わり。トータ
可能になっ ルケア・システム（福岡
た。現在は 市）社長の長武志（59）
三万所、百 は、十月の本格稼働に向
十八区画の けて試運転中の紙おむつ
特区農園を のリサイクルプラントか
運営する。 ら吐き出されるバルブの
一画（三 白さに目を細める。
十平方尺） もともとは、病院や介
あたり年三 護施設に紙おむつなどを
そこで活用したが、

新会社として立ち上げ
たトータルケアは、紙お
むつメーカーのユニ・チ
ヤームや利用者の医療機
関から出資を受け、技術
的なメドもつけたが、プ
ラント建設地の取得で暗
礁に乗り上げた。周
辺住民への説明には時間
がかかり、土地を買った
余裕もない。

実験場に飛躍の道を探る試
みを追った。 敬称略

見解は「クロ」だった。 万円で千区画以上貸せ
立ちほだかった壁が崩 販売する会社の経営者だ
れたのは昨年。横浜市が ば、事業は黒字化すると
「市民利用型農園促進特 いう。遊休農地は都市
区」の認定を受け、特区 近郊で共通する悩み。規
制緩和が全国に広がれば 思いを抱いていた。一日
の回収量が六トに達する 土地開発公社の土地の賃
紙おむつから「バルブを 賃。本来は分譲用だが、
分離できないか」と、福 福岡県大牟田市などの環
岡大学の松藤康司教授ら 境創造新産業特区では賃
と研究を始めた。 貸できる。環境関連の工
業団地内に土地を確保し
て初期費用を抑え、プラ
ント建設にこぎ着けた。
全国に同様のプラントを
設け、「リサイクルの成
功モデルにしたい」と、
長は力を込める。

◇